

答申中間整理に対するこども・若者、 子育て当事者等からの意見

ライフステージを通じた重要事項について

(1) こども・若者が権利の主体であることの社会全体での共有等

- 学校現場では、ヤングケアラーやエデュケーショナル・マルトリートメント(教育虐待)などの問題も多々見られます。ですが、こうした事例について、周囲の大人が、権利侵害だと決めつけるのは非常に難しいです。ゆえに、職員の中で該当する生徒の話があがったとしても、「子ども本人が苦しい、しんどい、助けてと言っていないのだから、現状維持で行こう」といった方針がとられてしまっています。ですが、現在の家族主義中心の日本において、親や家庭への抵抗を示すのは非常に難しいと思います。さらに、「子どもの権利」という価値や認識枠組みを持つ機会が提供されいないまま、自ら「助けて」と声に出すのも非常に難しいと思います。こうした社会構造があるにもかかわらず、多くの大人や子どもは気づいていません。結果、学校現場でも教師や生徒から「苦しいなら、自分で苦しいと言ったらいいいじゃん」「苦しいと言わないやつが悪い」といった自己責任を強める発言が度々あります。このままでは、「助けて」と言えない構造がさらに強化されてしまうと感じています。こうした課題を解決するため、「助けて」と声に出すのは子どもの権利であることや、誰/どの社会制度にどうやって「助けて」と言ったらいいのか学ぶ機会を公的なカリキュラムに入れていただきたいです。(こども・若者)

(3) こどもや若者への切れ目のない保健・医療の提供

- 在留外国人のこども・若者や海外から帰国したこどもについて、就学支援や適応支援、日本語指導等、個々の状況に応じた支援を推進する。宗教除去食に対応する方向で考えることを明記してほしい。豚肉除去については、豚肉アレルギーなら対応するが宗教について対応しない。と学校に言われたケースがありました。(一般)
- 生理に対する教育の最近の変化だったりというのに、まだ教科書だったり内容が追いついていないんじゃないかなということで、最近ですと、PMSであったりフェムテックという女性に対しての活動が促進されているので、そういう内容も教科書に入っていたり、高校での生理に対する教育が少し弱いんじゃないかなと感じていて、例えば、全国の高校生が集まる機会があったので、そこでアンケートを取った際に、体育で不安に感じる人が多いという意見だったり、やはり情報が足りていない。ある程度、小学校や中学校で基盤はできていても、実際に当事者になったときにどうしたらいいか分からないであったり、情報不足という面があるので、保健の先生だけでなく、産婦人科だけでなく、教科書といったところで保健教育にさらに力というか、ちゃんとみんなの基盤の上の、さらなる基盤ができたらいいいなって思っています。(こども・若者)
- 私は心臓病があって、入院したとき半年間ぐらい学校に通えなかったんですけど、院内学級も転校しないと入れなかったもので、短い入院を繰り返しているこどもとか、けがしたこどももみんなと勉強したいので、どんな症状の子も入れるように、1日でも院内学級に入れるようにしてほしいです。(こども・若者)

(5) 障害児支援・医療的ケア児等への支援

- ADHD(注意欠如・多動症)などの人がアルバイトを探すとき、レジの間違いや遅刻癖があるとバイトを見つけるのも大変だと思う。アルバイトのアプリなどに、ADHDの人などが働けるような場所のまとめがあると良い。(こども・若者)
- こども家庭庁のほうで、いろいろなところの支援ということで、相談事業を新たにやられているのですが、相談事業があまり支援につながっていないのではないかと感じられます。実際、私のこどもも2人とも学習障害持ちなのですが、あまり学校の対応がよろしくないですし、相談所に相談しても、「そうですか」と聞いておしまいというところで、具体的なところは自分で動かざるを得ないところが多々ありますので、そういったところも含めて、必要なところに集中して予算を使ってほしいなと思います。(子育て当事者)

(6) 児童虐待防止対策と社会的養護の推進及びヤングケアラーへの支援

- 「困ったら助けてもらえる」に違和感があつた。そもそも第三者から見たら異常事態であることが明白な家庭環境であつても、その中で育つ子ども本人からしてみればそれが「普通」なので、「困った」という感情を自認できるのはもっと大人になってからのことが多い。虐待をする親は責任をすべて子供に転嫁するので、自分が悪いと思っている子供たちにとっては「虐待を告白する＝私はルールを守れない悪い子だ、恥ずかしい子だ」という認識が強いことがある。そのため、「こんなことがお家で起きていたら良くないことだから、学校の先生に相談してみよう」などの、子どもたちがその困りごとを認識し、自分からSOSを発せるようなより具体的な内容・例を提示してほしい。子どもの中で嫌なことをされて悲しい気持ちが芽生えていたとしても、こんなことで相談していいのかな、これを相談したら軽くあしらわれるんじゃないか、という不安があつてなかなか相談できないので、SOSを発する、相談をするに至る具体的な内容を提示してほしい。(こども・若者)

(6) 児童虐待防止対策と社会的養護の推進及びヤングケアラーへの支援（続き）

- こどもにも色々違いがある中で、こども政策というと明るいものに焦点を当てがちである。ネガティブな感情を持っている子もたくさんいる。ネガティブな状況の子は、明るい環境にある子には理解されにくいと思う。今回のようないけんひろばがたくさん開催されて欲しいし、次回があれば参加したい。自分は児童相談所に保護されていたことがある。その環境も差があると思うが、自分の時は保護される条件が厳しくなり始めた年代だった。「通報があったからとりあえず保護しよう」みたいな感じだった。自分は小学校低学年の時、校内放送で呼ばれて、いきなり圧迫面接のように先生やおとなに囲まれた状態で会議室に連れていかれた。保護というよりは、「今日1日だけ一緒に児童相談所で相談しよう」ということで行ったが、ふたを開けると「家に帰らないでください」と言われた。そこから急に家族と会えなくなった。自分にどのような影響があったかという点、児童相談所では勉強する時間が全くなかった。ほとんどの子がそうだったと思う。入浴の際、シャンプーやリンスは1プッシュしかだめで時間制限もあった。服にも名前を書かなければならない。何も悪いことはしていないのに刑務所の中のような生活をしていた。テレビも少ない時間しか観ることができなかった。学校では6年間皆勤賞を狙っており、辛くても毎日学校に行くようにしていたので、その体験は自分にとってとても影響があった。いきなり連れていかれて全く違うスケジュールの生活を送らなければならなくなった。その後、学校に行きたいと言い続けて、学校には通えるようになった。ただし、色々な条件があり、親戚の家から電車で通わなければならなくなった。学校の開始時間に間に合わなくなり、朝の会の途中から参加しなければならないことになった。学校に来なくなる子は珍しく、学年間のつながりは強かったこともあり、みんな自分のところに集まって「なんで学校に来なかったの？」とずっと聞かれていた。そのようなことがあったので、学校に行きづらくなってしまった。児童相談所において、勉強する場所は一律につくって欲しいし、こども本人の意見を聞いて話し合ってから保護してほしい。「こどもだから分からないよね」、「親のことをかばうよね」といって、こどもの気持ちが無視されているので、そこにも目を向けてほしい。（こども・若者）
- 自分が虐待を受けていても、その状況を相談機関のひとたちに上手く伝えられる自信がなかったり、「私よりも酷く傷ついてる子もいると思うから……」「ただの自分語りだと思われそうだから……」相談機関は何も動いてくれなさそうだと感じたりします。そういった意味で、相談機関に相談することのハードルがすごく高く感じられるんです。だから、これだけ拙くてもいいんだよ、ゆっくりでいいんだよ、相談してくれたら（相談機関は）こんなことができるんだよということを学校の講演や何かで体験して、知ることが出来れば、いじめや虐待で自殺する人を減らすことが出来るのではないかな、と思います。また、以前私が相談機関にチャットで相談した際、夕方に送ったのですがなかなか繋がらず、翌朝に返信が来たため相談のやりとりができませんでした。人員不足でしょうか…？特に長期休み期間など、対応できる十分な人員が確保され、充実した相談機関のある社会になることを強く望みます。（こども・若者）

ライフステージ別の重要事項

(2) 学童期・思春期

- いち若者として、「親になること」への実感を得る機会がなく、親になるにあたって必要な準備・心構え、動員できる公的・私的リソース、実際に子供をもうけたときに起こること、各種事象への対処などといった内容を知らずに子供をもうけるのは相当にハードルが高いと感じます。「何の授業も受けないまま人生を左右する受験に臨め」と言われているようなものです。解決策として、各国で実施されている「親準備教育」を我が国の基礎教育過程で実装すべきと思います。参考までに、私はオーストラリアの公立高校でこの授業を体験しました。パートナーシップの構築や避妊・性行動の自主選択といった内容に始まり、妊婦経験、乳幼児を模した衝撃検知器と夜泣きスピーカー入りの重りを持って1日過ごすことなど「子育てには困難が伴うが、乗り越えられる」という成功体験を与え、児童発達心理や公的援助制度といった知識面のフォローアップを行う内容でした。また、キャリア教育の授業との連携も行われ、親になりながら自身のキャリア構築を両立することのイメージを持つことができる内容が提供されていました。(一般)
- こどもの声は騒音ではないということを条例として明記していただきたい。(子育て当事者)
- 最初は看護師さんになりたかったが、高校で文理選択を考えているうちに、今は方向性を変えて起業をしたいと思っている。起業という選択肢について知るのが遅かったなという思いがあるので、小さいころから仕事について知ることのできる機会を設けてほしい。美容師さん、お花屋さん、YouTuberなどの職業は想像できるけど、あまり知られていない職業は想像しづらい。そういう職業をもっと身近に感じられるようにしたい。海外では、高校生から大学生の期間などで実際に働く体験をする機会があると聞くので、そういう機会があるといいなと思う。(こども・若者)
- キモいという言葉が、テレビラジオ、または、YouTubeやTikTokをはじめとした場で頻繁で使用されてしまうと、悪気のない人達(こども、若者から老人まで)が、自覚のないままに、多くのいじめ被害者や、多くのいじめ後遺症に苦しんでいる人を傷つけてしまうことになります。自覚のないまま、加害者となってしまうことを防ぐために、テレビとラジオを中心とした、こういった番組作り、YouTubeやTikTokでも、広くそういったコンテンツを作ってゆくことも良い事だと思います。そういった取り組みへの賛同や協力、後押しなどをこども家庭庁には期待したいです。また、こども家庭庁主導でこういったコンテンツや、優れた動画作品、また精緻な見応えのある特集コンテンツの作成もお願いしたいです。(一般)
- いじめは「犯罪行為」であることを小学校に入学した時点で子どもに伝えることを必須としてほしい。いじめによる暴力や名誉毀損、器物破損などで、警察や裁判沙汰になることや、成人後、社会的ペナルティを背負う可能性があることを子どもに認識させてほしい。また、もしいじめが発覚した場合、加害者の転校を必須としてほしい。被害者の人権を尊重すべきだと思う。(一般)

- 「お前の足の動きは人間の足の動きではない」「その足では和式便所は使えないな」みんなと同じように動かせない足について顧問に皆の前で大声で言われた言葉です。中学に入学してすぐに入部した部活で怒鳴られながらも自分なりにがんばっていましたが、そのほかに「ばか」「アホ」「鳥頭」「散歩忘れたらすぐ忘れる」等大声で怒鳴られ、恥ずかしい思いをしました。うまくしゃがむことができない足を見て、顧問が自分の肩に手を置き全体重を乗せて無理やりしゃがませられました。その時はつらく涙が出ました。それからベッドから起き上がることもできなくなってしまい、入院しました。中学1年の5月から体調を崩し登校できなくなってしまい、今中学3年生です。現場となった場所を見たり、当時のことを思い出したりしても頭や胸が痛くなり冷や汗が出てきて具合が悪くなります。中学生生活も残りわずかですが、みんなと一緒に学校生活を送りたかったと思います。先生の暴言や暴力的行為で具合が悪くなり中学に通えなかったため中学1年、2年の勉強ができませんでした。今も痛みがひどくてお昼ごろまで起き上がれません。高校へ進学したくても起き上がれないので学校に通えるかわからないし、内申点もないから高校に合格できるかもわかりません。これからのことを考えるととても不安です。不登校でもいろいろな理由があります。自分のような不適切指導の被害生徒が二度と出ないようにしてほしいと思います。(こども・若者)

(3) 青年期

(就労支援、雇用と経済的基盤の安定のための取組)

- 近年、アプリやSNSでの出会いサービスが普及して交際や結婚する人が増えています。しかし自由競争の環境である為、モテる人と全く相手にされない人とで二極化してしまい、昔なら普通に交際できたような人でも交際に辿り着けなくなっていると聞きます。また、利用者の中に著しくモラルに欠けた人(いきなり連絡が途絶える、既婚者が遊び目的で登録する等)がいて、その人達とマッチングした人が交際や結婚に希望を持てなくなってしまったという話も多く聞きます。昔のお見合いのように周りの人が御膳立てする形の結婚支援を増やしていかないと、経済環境に関わらず結婚しない、出来ない人が増えていくと思います。結婚するための環境が昔と大きく変わっている事を前提に、より柔軟な対策をして頂きたいです。(こども・若者)

子育て当事者の支援に関する重要事項について

(2) 地域子育て支援、家庭教育支援

- 産後すぐというところがあったのですが、産後ケアのところで、0歳のときからすぐに預けられるようにしてほしいなと思います。0歳の産後すぐが一番大変で、私は親を頼れなかったので、ファミサポとかでもいいですし、保育所とか、手続を簡素化してすぐに預けられるようにしてほしいです。(子育て当事者)

(3) 共働き・共育での推進、男性の家事・子育てへの主体的な参画推進・拡大

- こどもの参観日や急な体調不良等で親が仕事を休める保障をしてほしい。親が自分のためにとるだけでなく、こどものためにとれる休暇制度を設けてほしい。(こども・若者)
- 子育て当事者を支える側のフォローについても触れてほしい。例えば、育休を取る人の代わりに仕事をする人のことも考えてほしい。(一般)